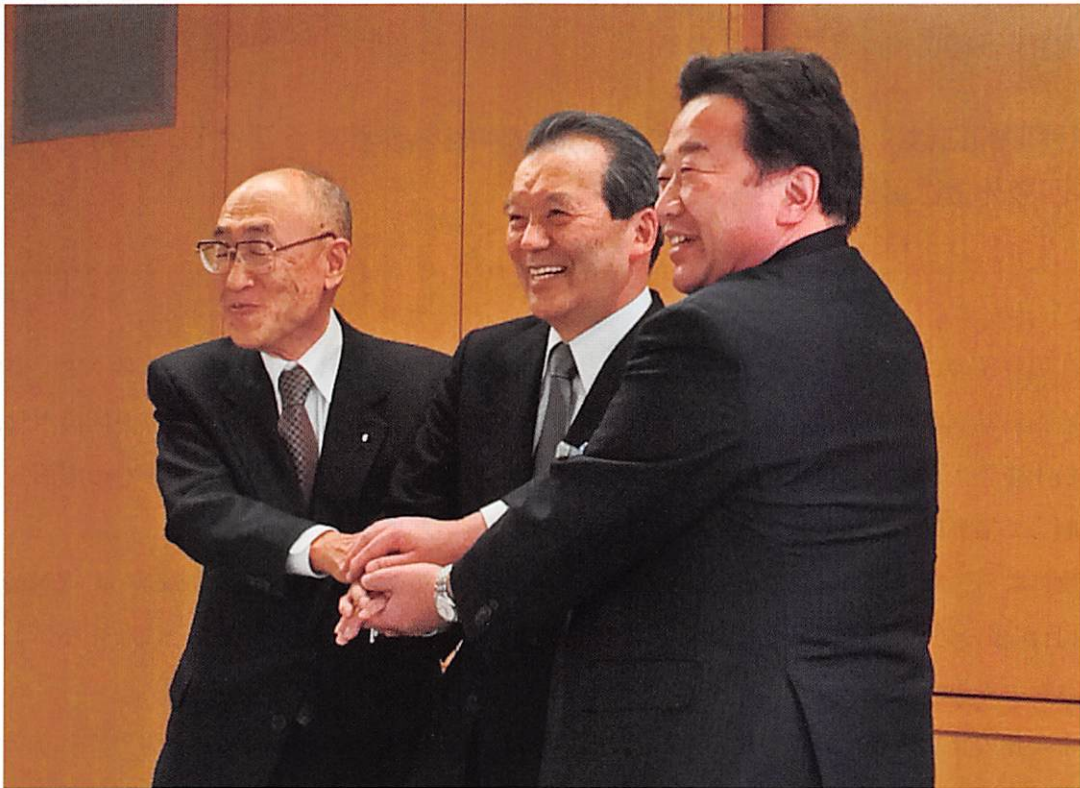
 いわき市立総合磐城共立病院

# 地域医療連携室だより

## 地域整形外科支援講座開設と 医療スタッフの確保について

院長 新谷 史明



福島労災病院から東北大学整形外科が医師を引き上げるということは数年前から噂されておりましたが、いよいよ本決まりとなった昨年春に、福島医大付属病院長紺野教授にいわき市の整形外科医師不足についてご相談をしました。その際に紺野教授から共立病院に医師を派遣するために、寄付講座を作っては、とご指導を受けました。元来、故木田浩先生をはじめとして、福島医大整形外科医局からは多くの医師が当院に派遣され、活躍されていましてから、さらなる福島医大からの整形外科医派遣に関しては、病院内部としては



【いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室】

電話 0246 (26) 2250 (直通) FAX0246 (26) 2119  
URL <http://www.iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp>  
E-mail [kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp](mailto:kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp)



問題はありませんでした。清水敏男市長にもご理解をいただき、ほどなくいわき市が福島医大に講座の運営経費や研究費を賄うための寄付を行い、同大が「地域整形外科支援講座」を開設し、整形外科医3名を当院に派遣するということが正式に決定しました。3月30日には福島県立医科大学で、清水敏男市長、平則夫病院事業管理者が福島医大菊地臣一理事長と寄付講座協定を締結（写真）し、4月1日からは江尻莊一教授、志田努先生、川崎有希先生が当院に着任しました。講座を設置することにより期待される効果としては、福島県立医科大学のホームページには以下のように書かれています。

- ◆ 本講座から磐城共立病院に、重度四肢外傷治療が可能な常勤医を増員することで、いわき市の外傷治療の質的向上が期待できる。
- ◆ 研究結果に基づいて四肢外傷の治療体制を改善させることで、患者の生命予後や機能予後の向上が期待できる。
- ◆ 中長期的には、人員・設備を含めた治療体制を改善することで、更なる整形外科四肢外傷医の確保が容易となる。

新任の江尻教授のご専門は「手の外科」であり、重度四肢外傷の治療に万全の体制を敷くことができました。同じく福島県立医科大学に4月1日より、南東北病院の寄付講座として外傷学講座が開設され、教授となられた松下隆先生がご挨拶に来られましたが、どちらも外傷治療の質的向上を目指すものであり、お互いに切磋琢磨して福島の外傷治療成績の向上につながれば良いと思っています。

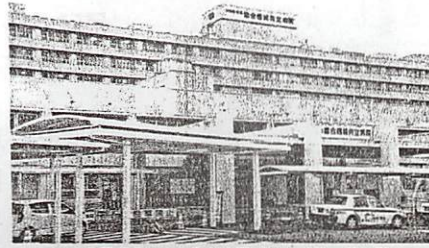
寄付講座による医師の増員に関しては、他大学からの医師の参入の障壁になる、あるいは“寄付講座中毒”、『金の切れ目が縁の切れ目』、などご批判もあるようですが、指摘されたようなことにならないよう知恵を絞っていきたいと思います。

いわき市全体の整形外科診療についてみると、労災病院の診療体制の縮小は大きな痛手です。これまで競い合い、協力しあってきた関係でしたが、当院一極集中となるといかに当院の整形外科スタッフが増えても、受け入れ口である救急部、手術部、麻酔科スタッフなどの他、手術室、手術機器、救急病床などのハード面での不足も解決されません。少なくとも1年間は東北大学整形外科から労災病院にスタッフ1名の派遣は続くということなので、その間に重症度、緊急度に応じた分業体制など、医師会の先生たちとも協力し、対応策を考えなければならないと思います。

将来的な医師の確保策として、いわき市では「市立病院医師修学資金貸与制度」を平成19年度より設け、毎年医学部学生3名に修学に必要な資金を貸与しています。それに加えて今年からは助産師を目指す学生にも修学資金制度を設け、毎月10万円を1年間貸与することにしました。定員は2名ですが、今年はこの制度がまだ一般に周知されていなかったこともあり、奨学生は1名でした。地域周産期医療センターである当

院にとって助産師の確保は急務であり、HP、学校訪問、SNSなどあらゆる広報手段を使って制度の周知を図り、奨学生を増やし助産師の増員に努めたいと思います。今後とも連携医療機関の皆様のご協力をお願いいたします。

# 寄付講座で医師確保



いわきの医療の核となる総合盛城共立病院。寄付講座開設などを通して医療体制の強化を図る

## いわき市 助産師養成へ修学資金 地域医療体制強化へ

いわき市は新年度、寄付講座による福島医大からの医師派遣や、全国からの助産師募集の事業を行い、慢性的な医師不足などを課題となつている地域医療体制の強化を図る。関連予算と

条例案を2月議会に提出する。清水敏男市長が19日、発表した。寄付講座は、市が同大に講座の運営経費や研究費をまかなうための寄付を行い、同大が「地域整形外科支援講座」を開設、整形外科の医師を市立総合盛城共立病院に派遣する仕組み。現在、同病院の整形外科は7人体制で、詳細は調整中だが3人の医師が4月から5年間、派遣される見通しとなっている。

市は修学資金を1月から産科、助産師養成に充てる。門学校など10万円の修学資金を、貸与期間で、居住制限、居住制限がないため、志望者が対象となり、卒業後1年勤務すれば、勤務する。一方、市内には修学資金を1月から産科、助産師養成に充てる。門学校など10万円の修学資金を、貸与期間で、居住制限、居住制限がないため、志望者が対象となり、卒業後1年勤務すれば、勤務する。一方、市内には修学資金を1月から産科、助産師養成に充てる。

平成27年2月20日 福島民友新聞掲載



## 地域整形外科支援講座の 開設にあたって

福島県立医科大学 地域整形外科支援講座

教授 江尻 莊 一



平成27年4月1日付で、いわき市と福島県立医科大学の協定により地域整形外科支援講座が開設されました。本講座の主な目的は、四肢外傷医の不足が深刻ないわき市に常勤医を増員し、四肢外傷の治療体制を充実することです。

いわき市ではこれまでも、人口32万人に対して整形外科勤務医が20人弱と全国平均値を著しく下回っておりました。さらに、今年度から福島労災病院整形外科医師の多数退職に伴って、四肢外傷の治療体制はさらに厳しくなることが予想されていました。そこでこの状況を改善すべく、清水敏男いわき市長、平則夫いわき市病院事業管理者、および菊地臣一福島医大理事長の三者協定により、本講座が開設される運びとなりました。開設にあたり、いわき市と福島医大の多くの関係者にご協力いただきましたこと、この場をお借りして深謝申し上げます。

本講座の契約期間は年次更新制ですが、基本的に5年間の予定です。構成員は平成3年卒の私と、平成16年卒の志田努、平成20年卒の川崎有希の計3名です。私と川崎は手外科・顕微鏡視下手術（マイクロサージャリー）が専門で、手を中心とした上肢疾患の治療と、重度四肢外傷や四肢麻痺の機能再建が専門です。志田は脊椎外科医で、破裂骨折や脱臼骨折などの脊椎脊髄外傷と脊椎症などの変性疾患の治療を行っています。寄附講座といっても、実際の日常診療においては当院整形外科の一員として、相澤診療局長や笹島・安永部長のもとで協力しながら通常の診療業務を行っております。特に年間1,500件近い整形外科手術数は関連病院の中でも群を抜いており、3ヵ月があっという間に過ぎてしまったというのが正直な感想です。しかし、これから徐々にギアを上げていき、一般整形外科診療と専門分野の研究・治療を両立していく所存です。

さて、私が得意とする分野は前述のようにマイクロサージャリーを駆使した外傷治療と、組織欠損や麻痺の再建です。福医大整形外科9年目に当時の菊地臣一教授の御高配により、腕神経叢麻痺に対する筋肉移植術の第一人者である山口県小郡第一総合病院土井一輝院長のもとで1年間、手外科・マイクロサージャリーの研鑽を積みました。その後医大整形に戻り15年間、切断四肢の再接着、皮弁を用いた軟部組織欠損の再建、広範囲骨欠損に対する血管柄付き骨移植、腕神経叢損傷に対する神経移行・移植術などを行ってきました。これまで磐城共立病院にはマイクロ手術を行う整形外科医が不在であったため、これらの手術は檜垣先生をはじめとした形成外科にお願いしておりました。これからも、形成外科のご協力をいただきながら、出来る限り再建手術を担当させていただきたいと思っております。そして重度四肢外傷の初期治療から確定的手術、後遺障害に対する機能再建まで整形外科が一元的かつ系統的に行える、理想の治療体制を実現させたいと考えております。また、講座であるからには研究も重要な使命です。治療体制を改善しながらデータを蓄積して評

価し、それによっていわき市の外傷患者の機能予後や生命予後を向上させることが我々の最終目標です。

外傷以外のもう1つの目標は、当院を日本手外科学会専門医取得のための認定研修施設にすることです。認定後には、手外科に興味のある研修医を獲得し、地元に着していただくことで、いわき市の手外科治療の充実に貢献できればと考えております。

私はいわき市平の出身です。震災の時に福島にいて故郷に何も出来なかったという思いが強くなり、2年前に現教授に帰郷を切望したことが今回の人事に繋がりました。私が教授という役職に相応しいかは甚だ疑問ですが、やっと故郷であるいわきのために尽力できると静かに燃えております。

また、開設早々構成員の一人が目出度いことになってしまい、本多先生をはじめ、関係の皆様には大変お世話になり、また御迷惑をお掛け致しました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。時期が来れば必ずや福医大から交代要員が派遣されるものと確信し、当面は2人分頑張りますので、御理解、御協力を頂ければ幸いです。

最後になりましたが、磐城共立病院のため、そしていわき市の医療向上ために微力ながら尽力していく所存です。今後皆様には御指導、御鞭撻のほど、よろしく申し上げます。



## 略歴

### 学歴

福島県立磐城高等学校卒、福島県立医科大学卒

### 主な職歴

- H3 福島県立医科大学整形外科入局
- H4-10 国立郡山病院、公立相馬総合病院、南東北病院、星総合病院、県立喜多方病院等
- H11 山口県厚生連小郡第一総合病院(手外科・マイクロサージャリーの研修)
- H15 福島県立医科大学整形外科 助手
- H19 同学内講師
- H24 同講師
- H26 ふくしま国際医療科学センター医療産業TRセンター 准教授

### 資格

医学博士、日本整形外科学会認定医、日本手外科学会専門医

### 所属学会(役職)

日本手外科学会(代議員)、日本整形外科学会、日本マイクロサージャリー学会

診療科  
紹介

## 当院の整形外科のご紹介



当院整形外科は1972年、田畑四郎先生（前々院長）の赴任により開設され、その後、多くの医師の参加を経て現在にいたっています。

整形外科の分野は、脊椎（頸椎～腰椎）、関節（肩、肘、手、股、膝、足）、外傷（骨折、腱、靭帯損傷など）、末梢神経など多岐にわたります。また治療に当たっては保存療法（薬物療法、理学療法など）と手術療法のいずれかが選択されます。当科ではこの整形外科のほとんどの分野での、主に手術療法を行っています。当科単独では治療が困難な多発外傷など救急の全身管理が必要な症例では、初期には救急救命科とともに治療に当たり、全身状態が安定した後のリハビリ等は当科で治療するようにしています。また骨軟部悪性腫瘍については高度な診療が必要となるため、診断までは当科で行いその後専門病院に紹介しています。

今年4月より福島県立医大に地域整形外科支援講座が設置され、3名の医師を当科に派遣していただけることになりました。これにより手の外科やマイクロサージャリーなども加えた、より充実した診療ができるようになりました。現在10名のスタッフで専門分野を分けて診療にあたっています。その専門分野と外来日を表に示します。休日、夜間は、救急外来より必要に応じ連絡を受けて対応しています。

役職	医師名	卒業年度	専門分野	外来日
診療局長	相澤利武	昭和58年	肩、股	月水、金（午後予約）
主任部長	笹島功一	昭和60年	骨折、外傷、足	水木
部人工関節センター長	安永亨	平成2年	膝、スポーツ障害	月（午後）、水金
地域整形外科支援講座 教授	江尻荘一	平成3年	手、末梢神経、 マイクロサージャリー	火水
科長	菅野敦子	平成10年	肩、骨粗鬆症	水金
科長	大森康司	平成12年	股、肩、外傷	月金
地域整形外科支援講座 助教授	志田努	平成16年	脊椎	月金
地域整形外科支援講座 助教授	川崎有希	平成20年	手、末梢神経、 マイクロサージャリー	木
医長	濱田壮志	平成23年	骨折、外傷	月
非常勤	牛来彩子		骨折、外傷	月火

手術件数は2011年以降年間約1,300～1,500件で2014年は年間1,408例1,538件の手術が行われました（多発外傷などでは1例で複数個所の手術を行うので例数と件数に違いが出ます）。当科での手術の特徴は、専門医により、各関節の関節鏡による手術、人工関節手術（股、膝、肩関節）が行われていると同時に、地域の三次救急を担うべく四肢脊椎外傷の緊急手術が行われているところです。日常生活の質を大きく改善する人工関節手術は質、量とも全国的にトップレベルにあり、特に肩の人工関節は最先端の治療が始まりました。四肢脊椎外傷による緊急手術では院内の麻酔科をはじめ複数の科に支援を受けており、術後のリハビリテーションに関しては、地域の多くの病院にご協力をいただいております。

以下、担当医師がその分野の疾患等に関しましてご紹介いたします（手の外科、マイクロサージャリーに関しては江尻医師が別項で記述しておりますのでご参照ください）。

## 人工股関節形成術について

約40年前に日本に導入された術式です。当院では徐々に症例が増加し、2014年度は105例に達しました。機器、術式が進歩したため、骨セメントを使用しない術式では手術時間は約1時間、術中出血は約400mlとなっています。手術翌日には座位、2日後には車椅子でのトイレを許可し、4日後から歩行開始、1週間にはT字杖歩行となります。退院は歩行が安定すれば許可し、通常の入院期間は10日から2週間程度と、以前より負担が少なくなっています。当院の手術の特徴は、術前のCT画像を基に3次元で使用機材の大きさや設置位置を確認する、「3次元テンプレティング」を採用していることです。術前準備に要する労力はこれまでの方式より多少大きくなりますが、手術術式の正確性や設置位置・角度の精度が向上し、手術時間が短縮するなど、これは優れた長期成績につながると考えています。

## 反転型肩人工関節について

2014年4月から本邦で認可、導入されました。肩甲骨関節窩に半球状のコンポーネントを、上腕骨側に凹型のコンポーネントを設置し、解剖学的形態とは逆になるため反転型と呼ばれています。大きな腱板断裂を伴った変形性肩関節症（腱板断裂性関節症）や、これまでの人工関節では安定性に問題の多かった関節窩に損傷を有する症例が対象となります。手術の実施にあたっては、術者が腱板修復術や人工骨頭置換術の経験を一定以上持ち、手術についての講習会を受講し、日本整形外科学会が定めたガイドラインを順守することが求められています。当科では導入以来30例の手術を施行しました。幸い脱臼や神経麻痺、感染などの合併症はなく、術前挙上不能だった患者さんが最低でも挙上100度は可能となっています。高齢者であっても全身麻酔が可能であれば、この手術により改善する可能性があります。



図1



図2

図1 進行期変形性股関節症

図2 人工股関節形成術後

臼蓋側

表面加工したチタン製シェル、クロスリンク加工された高密度ポリエチレン

大腿骨側

チタン製頸部（角度、長さの調節が可能）

ハイドロキシアパタイトがコーティングされたステム

図3 腱板断裂性関節症 屈曲60度 外旋-20度

図4 CT MPR画像 上腕骨頭が上方へ偏位

図5 MRI 広範囲腱板断裂

図6 手術後1年2か月 挙上110度、外旋0度へ改善



図3



図4

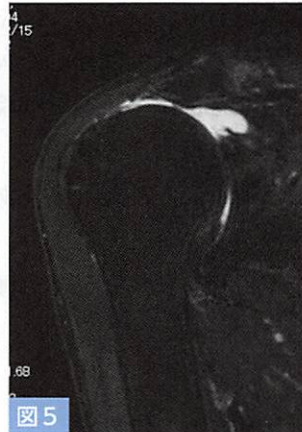


図5



図6

### 骨折治療

2014年の骨折、外傷関連の手術件数は602件でした。ここ10年間でロッキングプレート等の骨折治療機器の進歩と、ダメージコントロールオペレーション等の治療概念の進歩により、従来治療が困難であった症例も、良好な治療成績が得られるようになってきました。いわき市内は目下震災後の復興が進行中ですが、そのための労災事故も増加しています。たとえば落下事故が原因であることが多い踵骨骨折の手術件数は2010年以前は年間10件以下でしたが、2011年は10件、12年15件、13年14件、14年14件と震災前のほぼ1.5倍で、他の外傷も同様に増加しています。われわれの技術を生かして、患者さんが原職に復帰できるように機能障害を残さないように治療を行うことが、いわき市の復興の一助になると考えています。また交通事故による骨折、高齢者や小児の骨折も手術療法が必要な症例は、可能な限り受け入れています。

### 足部疾患

足部疾患は新鮮外傷を除いた、変性、変形、関節不安定等を対象にしています。2014年の手術件数は主に内反母趾や靭帯再建で31件でした。新生児から乳幼児の足部変形（内反足など）も治療しています。しかし成人を含めより高度な変形、変性疾患は、専門病院に紹介しています。

### 膝関節疾患

2014年度の膝関節手術は328例で、内訳は、鏡視下前十字靭帯再建術53例、鏡視下後十字靭帯再建術3例、膝蓋骨脱臼手術18例、鏡視下半月板切除術88例、鏡視下半月板縫合術6例、鏡視下遊離体摘出術10例、鏡視下滑膜切除術5例、人工膝関節置換術108例、高位脛骨骨切り術18例、その他19例となっております。最近では、前十字靭帯は解剖学的2重束再建法（膝関節回旋制動性においても成績良好）、高位脛骨骨切り術は内側開大法（強固な固定と人工骨の使用によりリハビリがはやい）、半月板縫合術はall-inside法（関節内のみの手技で縫合可能）が主流となっております。

いわき地区はスポーツが盛んですが、前十字靭帯損傷後に、再建術を受けずにスポーツ復帰したため、半月板が修復不可能な損傷を受けたり、関節軟骨が高度に剥離した症例も少なからず見受けられますので、受傷が疑われる場合には、ご遠慮無く、なるべくはやく当院へ紹介していただきたく存じます。

また、最近では、膝関節軟骨の比較的限局した欠損に対し、自家軟骨を培養し移植する方法も可能となっております。福島県では、当院と郡山の星総合病院のみが施設認定を受けておりますので、症例がございましたら、併せてご相談いただければと存じます。

私自身非力にて、皆様にはご不満な部分も多々あると存じますが、手術時の所見を紹介元の先生方になるべくご報告申し上げ、情報を共有することにより、当院と皆様とで患者を厚くサポートできればと考えておりますので、今後ともご指導の程、何卒宜しくご厚い申し上げます。



学術的には、整形外科の各分野で全国的に積極的な発表を行うよう努めています。2014年には各スタッフにより19回の講演、学会発表を行いました。また相澤医師は日本肩関節学会評議員（福島県内で1名）、笹島は日本骨折治療学会評議員（県内2名）、日本足の外科学会評議員（県内2名）として、全国的な整形外科の活動に参加しております。

現在、いわき市の医療環境にはきびしいものがありますが、特に整形外科は困難な状況にあります。震災以降、いわき市の人口は増加し患者数も増加している上、復興による労災事故の増加、高齢者の増加による整形外科的疾患の増加などがある一方で、周辺医療機関の整形外科医師の減少が進行しています。手術療法を主体とする当科では外来診療を制限せざるを得ず、初診の患者さんは他の医療機関からの紹介状のある方に限らせていただいています。また多くの手術に対応するため、入院期間の短縮をめざして、短期入院制度や代表的疾患のクリニカルパスを導入しています。

今後も当科の特徴を生かして地域医療に、そしていわき市の復興に貢献していきたいと考えておりますのでご理解ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。





## 新病院建設に向けた取組み

新病院の建設に向けては、平成26年9月に「大成建設・常磐開発特定建設工事共同企業体」と事業契約を締結し、現在は、建築実施設計や一部既存施設の解体工事などを進めています。

建築実施設計においては、これまでの院内各部門へのヒアリングなどを踏まえ、詳細な平面レイアウトや医療ガスなどの設備、デザインコンセプトなどについて決定してきました。

本年8月末頃には、建築実施設計を完了し、その後、本体建設工事に移行する予定です。



外観（イメージ）



正面玄関ホール（イメージ）

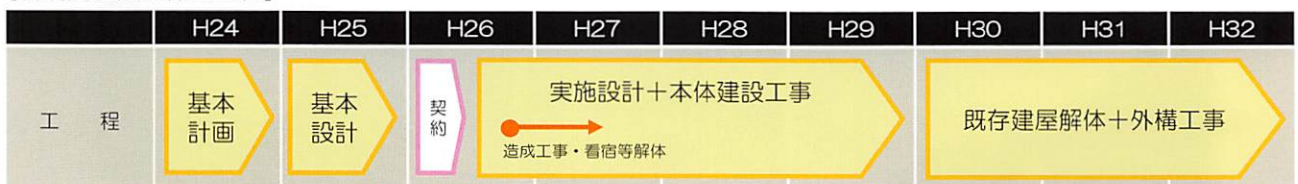


ホスピタルストリート（イメージ）



病棟4床室（イメージ）

### 【新病院建設に係る工程】



### 新病院づくり応援基金について

当院では、新病院づくり応援基金を設置し、市民の皆様や団体などからのご寄附を受け付けております。ご厚志は、建設工事や医療機器の整備に有効に活用させていただきます。皆様からの温かいご支援をお願いいたします。

平成27年6月末現在で、103件、3,034万円のご寄附をいただいております。

新

## 任医師紹介



もりしましげひろ  
**森島重弘** 医師

### 小児内科

主に小児先天性心疾患の患者さんの診療を行っています。成人先天性心疾患の患者さんを診ることもできます。小児科の外来に抵抗がなければ受診してください。心疾患のこどもや成人先天性心疾患の患者さんのために日夜を問わず努力していきます。



まえだ はじめ  
**前田 創** 医師

### 未熟児新生児科

4月より未熟児・新生児科に勤務となりました前田創です。福島県立医科大学出身で卒後9年目になります。福島県立医科大学の小児科学講座に所属し、専門は新生児です。いわきの赤ちゃんのために精一杯頑張りたいと思います。



えじりそういち  
**江尻荘一** 医師

### 整形外科

福島医大から四肢外傷の支援目的に派遣されました。本来の専門は手外科、マイクロサージャリー、麻痺の再建です。いわきは30年ぶりです。やはり異郷ですが、地域医療に貢献すべく頑張りますので、よろしくお願いします。



あべかよこ  
**阿部加代子** 医師

### 形成外科

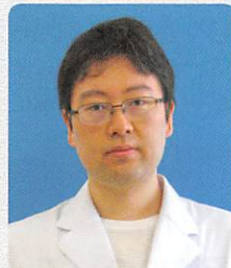
2011年筑波大学卒。出身は東京ですが、最近はお実家でも茨城訛りで話すようになりました。いわきは子供が礼儀正しく、縫合処置がしやすい印象です。いわきの美味しいお店を少しずつ開拓していきたいです。



はりゅうしんや  
**針生新也** 医師

### 脳神経外科

平成21年に新潟大学を卒業し、宮城県の大崎市民病院で初期研修を行いました。青森や埼玉などの病院を経て今年4月より当院に赴任しております。いわきの皆様の健康に貢献できるように尽力したいと思います。



ちょうなんまさし  
**長南雅志** 医師

### 脳神経外科

大崎市から赴任しました。過不足のない治療ができるようにします。



かつまたゆうき  
**勝又有記** 医師

### 泌尿器科

平成22年東北大学卒の勝又です。上司、他科の先生方、コメディカル、病院関係者の皆様と良好な関係を保ち、患者の皆様によりよい医療を提供できるよう努力していきます。何卒よろしくお願い致します。



あさの しゅんいちろう  
**浅野俊一郎** 医師

### 眼科

平成27年4月に赴任しました。白内障手術、硝子体手術、眼瞼手術などを中心に、いわきの地域医療に貢献していきたいと考えております。よろしくお願い致します。

## 地域医療連携室だより



### 麻酔科

栃木から赴任しました。精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。

おおもり ちえこ  
大森千恵子 医師



### 救命救急センター

本年度より赴任しました、池田慎平と申します。救命救急センターという科の特徴上、各科の先生方には大いにお世話になりますが、「自分以外我が師」の精神で勤めて参ります。

いけだ しんぺい  
池田慎平 医師



### 臨床研修医 1年

4月から初期研修医として勤務させて頂くことになりました、小名木彰史と申します。精一杯頑張ります。よろしくお願い致します。

おなぎ あきふみ  
小名木彰史 医師



### 臨床研修医 1年

いわき市出身、東北大学卒の織内優好です。1日でも早く、一人前になれる様、日々研鑽を積んでいきたいと思っております。みなさん、よろしくお願い致します。

おりうちまさよし  
織内優好 医師



### 臨床研修医 1年

入職から3ヶ月が経ったばかりですが、早くも一次二次救急外来、救命救急センターを経験し、日々豊富な症例から勉強させていただいております。患者様一人一人を丁寧に診られるように、研修に励みます。

さいとう はるか  
齋藤 悠 医師



### 臨床研修医 1年

福島県立医科大学出身で、大学時代はボート部に所属していました。至らない点多々ありますが、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

やまだ ちかこ  
山田慈子 医師

## 地域医療連携室への予約について

予約の際は、「地域医療連携診療予約申込書」及び「紹介状（診療情報提供書）」を当室までFAXにてお送りください。



また、予約に関してご不明な点がございましたら、下記まで電話でお問い合わせください。

予約受付時間 **8:30~17:00** [土・日曜日は受付していません]

いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室

電話 0246 (26)2250(直通)

FAX 0246 (26)2119

